2026年4月10日発行（毎月1回、10日発行）通巻305号

2026 4
No.305

GREEN PRINTING JFPI
P-B10001

GP JAPAN

全グラ情報

全国グラビア協同組合連合会

巻頭言

協調と共生で拓く グラビア印刷産業の未来

埼玉県グラビア協同組合
副理事長　佐伯 陽子

春の訪れとともに、新しい年度が始まりました。組合員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

4月は、多くの企業にとって新年度の始動であり、新たな志を立てる季節です。我々グラビア印刷業界を取り巻く環境は、デジタル化の加速や環境負荷低減への要請など、かつてないスピードで変化し続けています。しかし、時代が変わろうとも、生活者の日常を彩り、商品の価値を正しく伝える「パッケージの力」の重要性は変わることはありません。本年度も、技術の研鑽を怠らず、社会に不可欠なインフラとしての役割を果たしていく決意を新たにしております。

世界情勢は依然として不確実性を抱えております。国際政治の緊張や地域紛争は、経済活動や産業構造に少なからぬ影響を与えています。特に中東地域をめぐる情勢はエネルギー供給の安定という観点から、世界経済全体に大きな影響を及ぼしています。中東における紛争は原油市場を大きく揺るがし、世界エネルギー価格を変動させています。石油は単なる燃料ではなく、現代産業を支える重要な資源であります。プラスチックをはじめとする多くの化学製品は石油を原料としており、その価格や供給状況は幅広い産業分野に波及します。グラビア印刷業界においても例外ではありません。私たちが日々扱う包装用フィルムやラミネート資材、各種樹脂材料の多くは石油系由来のプラスチックを基盤としています。原油価格の変動は樹脂価格やフィルム材料のコスト上昇を招き、製造コストに影響を与える要因となっています。

さらに近年は、物流コストの上昇や為替の変動なども重なり、原材料調達の環境は決して安定しているとは言えません。経営の現場では、コスト管理や調達の安定確保がこれまで以上に重要な課題となっています。こうした外部環境の変化に柔軟に対応していくことは、業界全体に求められる大きなテーマと言えるでしょう。

一方で、私たちの業界が直面している課題は資源価格の問題だけではありません。国内では人口減少や市場構造の変化に伴い、産業のあり方そのものが大きな転換

期を迎えています。人材不足、設備の高度化、環境対応への社会的要請など、複数の課題が同時に進行しています。

とりわけ包装分野では、プラスチック資源循環や環境負荷低減への取り組みが世界的な潮流となり、従来の素材や製造プロセスの見直しが求められています。リサイクル対応フィルム、モノマテリアル包装、バイオマス素材の活用など、新しい素材や技術の開発が進む中で、グラビア印刷の技術力は今後ますます重要な役割を担うことになるでしょう。

グラビア印刷は、食品、医薬品、日用品など、人々の生活に欠かすことのできないパッケージを支える産業です。安全性や保存性、利便性を確保しながら、製品の価値を伝える役割を担う包装は、まさに社会インフラの一部と言っても過言ではありません。社会がどのような状況にあっても、安心して使用できる製品を届け続けること。それが私たちの重要な使命であります。

こうした時代だからこそ、業界としての連携と知恵の共有がより一層重要になっています。全国グラビア協同組合連合会としても、皆様とともに、技術革新の推進、人材育成、環境対応への取り組みなど、業界全体の持続的発展に向けた活動がさらに重要なものとなってまいります。

不確実性の高い時代ではありますが、私たちの産業が社会に果たしている役割は決して小さくありません。むしろ、持続可能な社会の実現に向けて、包装と印刷の価値はこれからますます高まっていくものと確信しています。

新年度のスタートにあたり、業界の未来に向けた歩みを皆様とともに進めていくことを願い、持続可能な社会形成の一助となれるよう、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

全国グラビア協同組合連合会・（一社）日本印刷産業連合会

日印産連と業界課題などを意見交換

2026年3月5日（木）、全国グラビア協同組合連合会（全グラ）事務所にて、（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）の戸田部長、内藤部長と打ち合わせを行いました。全グラからは、田口会長、安永副理事長、吉原理事、下田専務理事が出席しました。

議題は多く、①環境表彰制度の見直し案、「印刷産業環境ビジョン2050」について、「環境アドバイザー派遣制度」についてなど環境に関わる案件、②グラビア業界に特化した「新しい化学物質の管理御規制」セミナー開催について、③青年部有志向け「第2回グラビア未来共創セミナー」についてのほか、適正取引の推進に向けた自主行動計画（案）、自主行動計画の徹底プラン（案）についても意見交換しました。

グラビア業界特有の状況、課題もあり、各種印刷業界を傘下に持つ日印産連とのすり合わせ、連携がますます重要となっていることを実感しました。

GP JAPAN 全グラ情報

2026年4月号　No.305　全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙

上段：関西グラビア協組・青年部の第19回グラビア技術研修会、下段：全グラと日印産連の打ち合わせの様子。詳細は本文3、6～9頁参照

CONTENTS

巻頭言　協調と共生で拓くグラビア印刷産業の未来 …… ❶
埼玉県グラビア協同組合　副理事長　佐伯陽子

全グラ
全国グラビア協同組合連合会・（一社）日本印刷産業連合会：
日印産連と業界課題などを意見交換 …… ❸

組合員・単組の近況 …… ❻
関西グラビア協同組合・青年部：第19回グラビア技術研修会報告
報告者：東京計器㈱　米田大祐

Gravure …… ❿
ダックエンジニアリング・TIDE・Amcor：軟包装業界の省力化・合理化に向けた
中国スマートファクトリーの動向

酒は永遠の友　vol.15　田口 薫 …… ⓬

Data Watch　2025年12月 …… ⓮

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2026年1月 … 20

GP工場認定制度無料説明会のご案内 …… 24

GP認定制度申請についてのお願い …… 26

PRTR2024 年度データ公表 …… 28
届出排出量は23年度比1.7％減の119千トン、トルエン届出排出量は39千トン

2024年度PRTRトルエン大気排出量順位一覧（出版・印刷、プラ品製造） …… 34

Information

日印産連、「印刷産業環境ビジョン2050」公表 …… 9
日印産連、５月14日に「新たな化学物質管理規制について」追加開催 …… 29
UBE、食品接触用途に使用可能なマテリアルリサイクルPE/PAを開発 …… 33
改正振興基準の公表、2026年６月 …… 48

GPJAPAN は全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000 円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC
www.fsc.org
FSC® C012835

発　行：2026 年 4月 10 日
発行人：田口　薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
発行所：全国グラビア協同組合連合会
〒 130 - 0002　東京都墨田区業平１ - 21 - 9
あさひ墨田ビル
TEL.03 - 3623 - 4046、FAX.03 - 3622 - 1814
編集スタッフ：下田幸二（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
酒井由香（全国グラビア協同組合連合会）
編集協力：㈱加工技術研究会
印　　刷：㈱DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2026
落丁・乱丁はお取り替えします。GPJAPAN の無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

関西グラビア協同組合・青年部

第 19 回グラビア技術研修会報告

報告者：東京計器㈱　米田大祐

関西グラビア協同組合（髙桑真樹理事長、㈱ダイドー）および同青年部（堀川 孟部長、日新シール工業㈱）主催による第 19 回グラビア技術研修会が、2026 年 3 月 14 日（土）に大阪市北区堂島の中央電気倶楽部にて開催されました。関西のみならず北陸や中四国からも参加者が集まり、総勢 88 名の出席となりました。髙桑真樹理事長の開会挨拶の後、研修会がスタートしました。

関西グラビア協同組合の
髙桑真樹理事長

司会進行は青年部の
竹下 元副部長

第一部「トラブルシューティング ～各フィルムの加工適性～」
講師：全国グラビア協同組合連合会 顧問 都築晋平様

全国グラビア協同組合
連合会の都築晋平顧問

今回の講義は、参加者から事前に講師へ提出された質問事項を基に、その内容に沿って回答・解説を行う形式で進められました。参加者が日頃の業務の中で感じている疑問や課題を中心に講義が構成されており、実務に即した内容でした。

講義の主なテーマは「トラブルと対策」であり、トラブル発生の要因やその対処方法について、項目ごとに整理しながら説明が行われました。特に印象的だったのは、トラブルの原因を「4M ＋ E（Man ＝人、Machine ＝機械、Material ＝材料、Method ＝方法、Environment ＝環境）」の観点から捉える考え方です。トラブルは単一の要因によって発生するのではなく、これら複数の要因が重なり合うことで発生する場合が多いとの説明がありました。

講義内容は非常に充実しており、時間の経過を早く感じるほどでした。また、参加者から寄せられた質問には専門的で難易度の高い内容も多く、講義全体として非常にレベルの高いものとなりました。本講義を通して、参加者が日常業務の中で抱えている課題を共有

講義の様子

することができ、自身の業務を見直す良い機会になったのではないかと感じました。

第二部「グループディスカッション」

グループディスカッションでは、１グループ７～８名の全 10 グループに分かれ、意見

グループディスカッションの様子

交換を行いました。事前アンケートでヒアリングされた質問事項を中心に議論が進められ、各グループのリーダーが意見を取りまとめる形で進行しました。

グループは職種や経験年数に関係なく構成されていましたが、どのグループも和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われていました。参加者それぞれが日頃の業務で抱えている課題や工夫している点について共有し合い、実務に基づいた具体的な話し合いが進められていたことが印象的でした。

また、各自の業務における取り組みや工夫の方法についてグループ内で共有することで、良い点や改善すべき点について互いに意見を出し合うことができました。普段は異なる職種や経験を持つ参加者同士が率直に意見交換を行える場は、まさに今回の研修会ならではの貴重な機会であると感じました。

第三部「各グループ Q&A」

第二部のグループディスカッション終了後には、各グループで出された「講師に聞きたい質問」を取りまとめ、各グループから１つずつ発表形式で質問を行いました。

質問内容としては、

・浅い版でスジ欠点が発生しやすい原因について
・個人のスキルを向上させる方法について
・白インキにおいて A 社と B 社でドクターブレードの摩耗の違いが生じる理由について
・清掃を行っても異物が発生する場合の対処方法について

など、現場の実務に基づいた様々な視点からの質問が挙げられました。これらの質問に対し、講師の都築先生がそれぞれの状況を踏まえながら的確に回答され、講義内容の理解をより深める有意義なまとめの時間となりました。

Q&A の様子

青年部の堀川 孟部長

最後に、関西グラビア協同組合青年部の堀川 孟部長より、「本日の講義を踏まえ、トラブルを単一の要因として捉えるのではなく、皆で多角的な視点からトラブルについて考えていくことで、この研修会の学びがより活かされるでしょう」との言葉があり、研修会は締めくくられました。

改めまして、今回の研修会でご講演いただきました都築様をはじめ、開催に向けてご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本研修に参加された皆様がそれぞれの職場において、今後さらにご活躍されることを祈念いたします。

Information

日印産連、「印刷産業環境ビジョン 2050」公表

（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）は、印刷産業として、これまでの環境保全のさまざまの取り組みに加えて、これからも持続可能な社会の実現に向けて貢献していくため、「印刷産業環境ビジョン 2050」において重点目標を掲げ、業界内外に公表し、実現に向けて積極的に挑戦していくことを表明した（囲み参照）。脱炭素、循環経済、自然共生の実現に向けて印刷産業全体で挑戦を加速する。

ビジョン達成に向けて、これまで積極的に取り組んできた３つの環境自主行動計画（カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成、VOC 排出抑制）にも同ビジョンを反映し、活動を加速。また、「グリーンプリンティング認定制度」を同ビジョンと整合性のある制度に進化させ、その基本的な要求事項であるグリーン基準に盛り込んでいく。さらに、現在休止状態にある「環境優良工場表彰制度」を同ビジョン達成に向けた活動を推進するための制度へと深化、充実させるべく検討を進める。

その他、付録として会員団体・企業の社内教育や研修、日々の業務で活用できるよう、主要な環境用語を分かりやすく整理した用語解説も作成している。

印刷産業環境ビジョン 2050

私たち印刷産業は、これまでの環境保全の取り組みに加えて、これからも持続可能な社会の実現に向けて以下の重点項目を掲げます。

１．脱炭素社会の実現

事業活動に伴う温室効果ガスの排出量（Scope1、Scope2、Scope3）を実質ゼロにすることを目指します。このために、エネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの導入を推進し、持続可能な生産プロセスや製品・サービスへの転換を図ります。

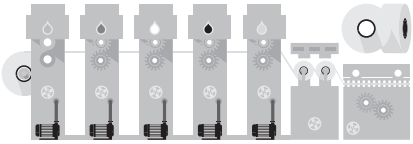
２．循環経済の深化

事業活動を通じて循環経済の実現を目指します。資源のリサイクルや再利用を促進し、廃棄物の削減に努め、持続可能な資源利用を推進します。

３．自然共生社会の推進

事業活動において生物多様性の保護と促進に取り組み、自然共生社会の実現を目指します。環境保全に配慮した製品開発や地域社会との協力を通じて、持続可能な未来を目指します。

これらの目標を実現するために、業界全体で環境への取り組みを強化し、新たに生じる社会・環境の変化にも迅速かつ前向きに対応、持続可能な未来の実現に向けて行動してまいります。



ダックエンジニアリング・TIDE・Amcor

軟包装業界の省力化・合理化に向けた中国スマートファクトリーの動向

今年1月28日（水）～30日（金）に東京ビッグサイトで開催されたCONVERTECH 2026に出展したダックエンジニアリング（DAC）は、インライン検版装置「ONLINE-MERCY」、静止画像装置「AU MATCH」などを搭載したグラビア印刷検査装置の「Crossover HS」や、共同出展のNew IWASHOのゲート式・蛇行・ピッチ制御装置（テンション監視機能付）「GDP-T」、自動移動システム「POSIMO（ポジモ）」といった製袋現場の様々な作業の自動化・合理化・生産性向上につながる機械を多数展示していた。28日午後3時50分からは、会場内のステージにてセミナーを開催した。同社の氷上好孝会長と中国DEQING TIDE MACHINERY CO.,LTD.（TIDE）の王 建斌総経理、Amcor China film & TS Segmentの張 荣成総経理が登壇し、中国の省力化、合理化の状況などを紹介した。

軟包装業界をはじめとする製造業は深刻な人手不足に直面しており、その解消に向けた全自動化への取り組みが求められているが、国内での進展は緩やかである。一方、中国でスリッターや巻替機の研究開発・製造を手掛けるTIDEは、2024年に次世代スマートファクトリーの研究開発に注力する新会社、TAiRECを設立した。同社は多関節ロボットやAGV（無人搬送車）、無人フォークリフトを統合し、搬送ラインの無人化・全自動化を実現する工場を稼働させている。25年11月には同工場のオープンハウスを実施し、国内外から約500名が見学に訪れた。

TIDEの王総経理によれば、同社は2005年の設立以来、中国国内の軟包装トップ10企業との取引に加え、日本、欧米、東南アジアなど世界各国へ装置を販売しており、日本国内でも17台が稼働している。また、次世代スマートファクトリーの開発を担うTAiRECは、日本の総武機械やNew IWASHOと25年にパートナーシップを締結。グラビア印刷機や製袋機の共同開発・販売を行っており、既に印刷機やドライラミネーターの販売実績がある。スマートファクトリーの設備には、総武機械と共同開発したグラビア10色印刷機やNew IWASHOの次世代製袋機がラインアップされている。こうした技術を統合し、一から設計されたスマートファクトリーは、4年前からAmcor Chinaで稼働しているほか、中国企業約20社への導入実績があり、会場ではスマートファクトリーデモ工場の動画も紹介された。

軟包装・プラスチック成形などの分野で世界トップシェアを誇る Amcor は、世界４拠点に研究施設を構え、約 1,000 人のエンジニアや研究者を擁している。昨年の売上高は 240 億ドル（約３兆 7,000 億円）。地域別の売上構成は北米 50%、西欧 30%、アジア・新興市場などが 20%となっている。北アジアでは中国を主拠点に、５つの事業所と 25 の生産拠点、5,000 人以上の従業員で構成される。事業内容は食品・日用品、食肉・乳製品、医療・健康用品、新材料包装の４分野にわたる。Amcor China film & TS Segment の張総経理は、日本で販売されている歯磨き粉の商品のチューブも同社製品であり、日本市場で求められる高い品質基準を満たす製品を供給していると説明。また、全製品のうち 95%がリサイクル可能な設計基準を満たしているとのことだ。

DAC の氷上会長は、日本の軟包装業界の自動化の遅れを最大の危機と指摘。「Amcor や TIDE、そして日本と中国それぞれの良いところを学び、いかに楽しみながら良いものを作り、軟包装業界全体で豊かになるかが未来に繋がる。最終的にはお客様の利益に貢献していきたい」と語った。

左から、TIDE の王総経理、Amcor China film & TS Segment の張総経理、DAC の氷上会長

酒は永遠の友 vol.15

田口　薫

ビールは北に行くほど濃くなり、南国は色は薄くあっさりとして苦みもない。台湾ビールが淡麗の極みだろう。

東京・神田神保町の「世界のビール ミロンガ」という店がある。今ではクラフトビールをはじめ、各国のビールが飲める。以前は、ここで珍しいビールにありつけた。昼は喫茶で、アルゼンチンタンゴが流れていた。神保町は古書店が十数軒あり、パリのカルチェ・ラタン（パリ・セーヌ河の左岸、ラテン語の地区）をもじって、“日本のカルチェ・ラタン”と言われるほど独特の店が揃っている。

洋食の「ランチョン」、鉄鍋餃子の元祖「スキートポーツ」、喫茶「ラドリオ」、冷やし中華の元祖「揚子江菜館」、上海蟹が安く食べられる「新世界菜館」、そしてカレーライスの店がたくさんある。昔は「共栄堂」のスマトラカレーぐらいだったが、今や100軒もあるそうだ。こんなところでも東京が食都と言われる所以だろう。裏路地には居酒屋の「兵六」（閉店）、「ミロンガ ヌオーバ」、南の離島ムードの「さぼうる」…味のある店が並んでいて食味本には出てこない大人のささやかな秘密の遊び場のようなところだ。

以前は「出雲そば本家」があり、黒っぽいコシのある出雲地方の蕎麦を食べられた。安来節のメロディに合わせ、店主が蕎麦を打つ姿を見ながら、蕎麦味噌をつまみながら酒を飲んだが、もう閉めて四半世紀も経つか？　酒の肴も揃っていただけに残念だ。

神保町の東が小川町で、ミズノをはじめ多くのスポーツ用品店があり、その隣が淡路町で、DICさんが本社を建て替えの時にワテラスタワーというビルを借りておられた。この辺りの路地も安くて美味い店が揃っていた。

私がよく行った「新越」では、富山の酒と魚が全部揃っていた。東京・人形町と秋葉原に系列店がある。なんといっても富山地方は氷見の鰤、ズワイガニ、初夏のホタルイカ、これは生きて泳いでいるのをすくって踊り食いという豪快な食べ方をした。最近はボイル

になってしまって残念至極。そして、富山湾だけの、茹でても白い、世界で唯一の甲殻類、白エビ。１つひとつ殻をむいてくれる刺身は贅沢だが、ねっとりとしてなんとも言えず美味い。エビはなんでも揚げると味が濃縮されてさらに美味い。

夏はゴリ。ハゼ科で４～５cm くらいの大ゴリと細くて小さな小ゴリがあるが、小ゴリの唐揚げはビールのアテに最高だ。正式名はヨシノボリという川ハゼの仲間だ。大ゴリは正式名カジカといって腹に吸盤があり、岩にくっついている。口が大きく、目がギョロっとしていて、よくいるどこかのオヤジという風体で愛嬌がある。吸い物にもする。金沢では高級料理で「ごり屋」という料理屋もあるらしい。

富山は石川と新潟に挟まっているが良い酒がある。「立山」「銀盤」「幻の瀧」「三笑楽」「勝駒」「満寿泉」といった日本酒があるが、「IWA 5」はフランスのシャンパン「ドンペリニヨン」の醸造責任者のジョフロワ氏が生んだワイン造りの技法アッサンブラージュを清酒に取り入れたワインのような不思議な酒だ。

富山県人は倹約家ではあるが、こと酒となればこの限りではない。以前、富山発祥の包材会社に売り込みをかけた時は一升瓶を２本持参して大喜びされ、取引は成功した。

昔話ではなく、今も酒の効用はあると思う。工場の上棟、新しい機械設備の設置に際し、神官を招き清酒を２本と山海の品々を供えて修祓式を行う習慣がある。ここでどんな酒を持参するかと考える。おめでたいから「松竹梅」というのも常識的だが、供えた後、飲んで「これは美味い」と感心させるような一工夫も、後の注文増には有効だろう。

開店祝いや昇進祝いに胡蝶蘭が流行っている。しかし、高くつく。私は 30 ～ 40 年前は２升５合の特別な酒を「升升半升」（益々繁盛）とゲンを担いで、おまけにこの大きな瓶を担いで持参する。相手はその大きさと迫力に驚く。なによりも他社との差別化という点では効果大だ。何回かこれで商売上、得したこともある。酒造メーカーどこでもというわけにはいかないので、有力酒販店かデパートに前もって取り寄せていただく。価格は蘭の半額くらいか。「美少年」「七笑」等で、中身は純米酒クラスである。

祝酒といえば、四斗樽を正面に据えて鏡割りの習慣があったが、今はほとんどなくなってしまった。清酒離れが進んだ結果だ。30 年ほど前は４斗（72L）の酒が入っていたが、いつの間にか上げ底になって半分の量になってしまった。柄杓で酌み取って升に入れて飲むが、今は清酒の置いていないパーティーもあり残念だ。